

10月1日(土)・大会1日目 11:40~12:40 (D会場:1101) (80分)

●ランチョン・ミーティング

「学術書籍出版への道」

＊服部泰宏(神戸大学大学院 経営学研究科 准教授)

児玉公一郎(日本大学 経済学部 教授)

岩尾俊兵(慶應義塾大学商学部 准教授)

＊セッション・リーダー

[概要]

学術書籍を出すことに興味があるが、具体的にどうしたら良いかわからない。博士論文がようやく完成するのだが、そこからのスピノフ作品を何らかの媒体で発表する予定なのだが、その媒体の選択で迷っている。またそもそも、書籍出版にはどういうメリットやデメリットがあるか、よくわからない。どうやって出版社にアクセスしたら良いかわからない。・・・このような悩みを抱える若手・中堅・ベテランを対象に、学術書籍を出すということにフォーカスしたセッションを提供したいと考えています。このセッションでは、第37回組織学会高宮賞著書部門を受賞された2名の研究者、そして2名の書籍出版を支えた出版者様をお迎えし、優れた学術書籍出版の「書籍出版を思い立った経緯」や「出版までの裏話」「研究者と出版社の間に交わされたやりとり」「学術出版の現実」などについて、お話いただきたいと思います。

[参加者へのメッセージ]

(良くも悪くも)ペーパーパブリケーションにシフトしつつある経営学にあって、書籍を出版することの意義はどこにあるのか、という問題について考えることを、目指したいと思います。午後に開催される、学術書籍出版を考えている研究者によるピッチセッションとセットでご参加いただくことをおすすめいたします。